

公表

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果

事業所名		公表日		利用児童数		回収数	
リールスメディカル新大阪		令和8(2026)年2月18日		8名		5名	
	チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
		環境・体制整備	1	3	1		
	2	3	0	0	1		
	3	4	0	0	1		
	4	4	1	0	0		
適切な支援の提供	5	5	0	0	0		
	6	4	0	0	1		
	7	5	0	0	0		
	8	4	1	0	0		
	9	5	0	0	0		
	10	5	0	0	0		
	11	0	0	1	4		
保護者への説明等	12	4	1	0	0		
	13	2	2	1	0		
	14	1	2	1	1		
	15	5	0	0	0		
	16	3	1	1	0		
	17	5	0	0	0		
	18	0	0	2	3		

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	4	0	0	1		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	4	1	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	1	4		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	4	1	0	0		
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	3	0	1	1		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	1	4		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	4	0	0	1		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	3	1	0	1		
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	5	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	5	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	5	0	0	0	いつも丁寧に対応してくださっていてありがとうございます。	引き続き懇切丁寧な支援やサービスの提供に努めていく。

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価結果

事業所名		公表日 2026年 2月 18日			
リールスメディカル新大阪					
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	7			
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7			
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7			
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7			
業務改善	6 業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	7			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	2	事務所外の自社社員による評価により業務改善に努めている。	今後、運営指導などの評価を業務改善につなげていく。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7			
適切な支援	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7			
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7			
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7			
	14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7			
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7			

援 の 提 供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	7			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	2	翌日のミーティングにて振り返り・打ち合わせを行っている。	送迎等の兼ね合いで当日の振り返りは難しいが、重要な事項などは当日中に周知していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	7			
25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	7				
関 係 機 関 や 保 護 者 と の 連 携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	7			
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	5	2	必要とあらば行う。	現在、就学前からの継続利用者がいないため、実施していない。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	5	2	対象児がいれば行う。	対象児がいらないため、実施していない。 現在の利用者が卒業する際には行う。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	7			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3	4	同一法人の他事業所とは交流を図っている。	地域の他のこどもとの交流する機会が作れていない。今後、機会があれば積極的に交流していきたい。
33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	4	3	管理者・児発管が代表して参加している。	スタッフはまだ参加できていないため、今後スタッフも参加できるよう調整していく。	
34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7				
35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3	4	ニーズがあれば実施検討していく。	現在、ペアレントトレーニングを希望している利用者がいないため未実施。	
36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7				
37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7				
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	7				

保護者への説明等	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	2	5	保護者同士で個人的に交流していることが多い。	現在、保護者会等の交流の場を事業所から提供することはできていない。今後、保護者から希望があれば開催を検討していく。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	4	3	現在、日々の記録や送迎時に活動の様子などを伝えている。	今後、事業所のブログを利用し、活動内容等を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	3	4	地域の祭りやイベントなどには利用者の様子をみながら参加している。	医療ケアが必要な利用者や全介助の利用者がほとんどであり、大きな行事を行うことが難しい現状。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	7				

公表

## 放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル新大阪		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療職のスタッフの割合が多く、安全に医療ケアやリハビリを提供することができる。	スタッフ間で情報共有をしながら、利用者がより快適に過ごすことができるようケアしている。また、積極的にリハビリを行い、身体機能の維持・向上に努めている。	利用者がより快適に楽しく過ごすことができるよう、医療職からの情報も個別支援計画に反映させていく。
2	日頃から児童おご様子・状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解をもてるように努めている。	連絡ノートや送迎の時間を利用し、ご利用の都度保護者との意思疎通の機会を設けており、お会いする機会に限られる保護者には、管理者・児発管が意識的に電話等でコミュニケーションを取るよう心がけている。	管理者・児発管が中心となり、モニタリング・経過アセスメント面談の際に日々のコミュニケーションの積み上げを活用していく。
3	職員の資質の向上を図るために、法人内等で研修を開催する機会が確保されている。	年間研修計画に基づき、イーラーニングを実施している。受講状況や実績を把握できるようにしており、各スタッフが勤務状況に合わせて確実に実施できるようにしている。	スタッフのキャリアに応じて児発管研修等の受講を進めている。また、専門職による事業所内の勉強会を開催しスタッフの更なるスキルアップを図っていく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特に平日のご利用の際にご利用者全員で活動を行うことが難しく、活動の内容が個別での活動が中心となっている。	ご利用の児童が重心児であり、医療ケアが必要な児童も多い。また、入浴を希望されている利用者も多く、スケジュールの問題や可能な活動が限られている関係で放課後のご利用時に全体で集団活動を行うことが難しい現状。	スケジュールの関係上、全員での参加は難しいが、一部の利用者でできる集団活動を取り入れるなどして、利用者間の関わりを増やしていく。
2	活動プログラムが固定化しがちである。	季節の活動を取り入れる等、プログラム固定化（マンネリ防止）に努めているものの、利用者の医療ケアや入浴スケジュールに合わせての活動となり、活動がマンネリ化してしまっている部分もある。	同一法人の他事業所の好事例情報やアドバイスを取り入れ、月に1回は新プログラムの試行に努める。
3	地域との交流や保護者との交流ができていない	利用者のほとんどがバギーを使用しており、医療ケアの利用者も多いことから移動やスケジュール調整が難しい状況。また、利用者の保護者も就労や兄弟児の世話などに忙しく、保護者交流を企画しても参加者が集まらない。	同一法人の他事業所や地域の放課後デイとイベントなどで交流していくことから始め、今後ニーズに合わせて地域交流や保護者会などの活動も検討していく。

公表

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果

事業所名	リールスメディカル新大阪
------	--------------

公表日 令和8(2026)年2月18日

利用児童数

1名

回収数

1名

	チェック項目	評価				ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	1	0	0	0		
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	0	0	0	0		
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	0	0	0	0		
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	1	0	0	0		
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	0	0	0	0		
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	0	0	0	0		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	0	0	0	0		
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	0	0	0	0		
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0		
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	0	0	0	0		
	11 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	0	0	0	0		
保 護 者 へ の 説 明 書	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	1	0	0	0		
	13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	0	0	0	0		
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	0	0	0	0		
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	0	0	0	0		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	0	0	0	0		
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	0	0	0	0		
18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	0	0	0	0			

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	0	0	0	0		
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	0	0	0	0		
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	0	0	0	0		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	0	0	0	0		
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	0	0	0	0		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	0	0	0	0		
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	0	0	0	0		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	0	0	0	0		
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	0	0	0	0		
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	0	0	0	0		
	29	事業所の支援に満足していますか。	0	0	0	0		

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価結果

事業所名		リールスメディカル新大阪		公表日		2026年2月18日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7		事業所内は広く、利用者全員が臥床しても問題ないスペースがある。		
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7		医療職のスタッフを多く配置している。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7		営業終了後、毎日清掃し、清潔を保っている。		
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	7				
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	7				
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	7				
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	7				
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	7				
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	7				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	7				
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	7				
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	7				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7				
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	7				
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7				

供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	7			
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6	1	主に休日に集団活動を行い、利用者同士の交流を図っている。	平日は未就学のご利用者が少なく、スケジュール上集団活動を行うことが難しい日も多い。医療ケアや入浴スケジュールを考慮しながら、可能な日には集団活動も検討していく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	7			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	4	3	翌日のミーティング時に前日の振り返りも行っている。	送迎との兼ね合いで当日の振り返りは難しいことも多いが、重要な事項は当日中に周知していく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	7			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	7			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	7			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	7			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	5	2	必要に応じて相談支援員と現状についてやり取りしている。	現状、就学先とやり取りをすることはないが、必要に応じて行っていく。
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	5	2		地域のセンターとの連携は現時点では取れていない。今後、必要となれば行っていく。
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	1	6	同一法人の他事業所との交流は行っている。	現時点では地域の活動に参加する機会は少ない。今後、地域の放課後デイを中心として交流を検討していく。
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	7			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	0	7		現時点でご要望がでない。今後、ニーズがあれば実施検討していく。	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	7			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	7			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	7			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	7			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	2	5	事業所主体のものではないが、保護者同士の交流もある。	保護者の多くが就労や兄弟児の養育等で多忙であり、保護者会等は開催できていない。今後、交流を希望する保護者が多ければ、保護者の負担にならない形で開催を検討していく。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	7			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	3	4	日々の実施記録や送迎時に普段の様子や活動の様子を共有している。	事業所のブログがあるため、今後積極的に活用し、活動の様子等を発信していく。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	7			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	7			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	2	5	見学等のご要望があれば、適宜対応している。	現時点ではイベント開催等はできておらず、地域のイベントに参加させていただいている。事業所の広さや重心対応自傷ぎょうしょであることを考慮すると当事業所での大きなイベント開催は難しい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	7			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	7			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	7			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	7			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	7			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	7				

公表

## 児童発達支援事業所における自己評価総括表

○事業所名	リールスメディカル新大阪		
○保護者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)		(回答者数)
○従業者評価実施期間	2025年 12月 1日		～ 2026年 1月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 2月 18日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療職のスタッフの割合が多く、安全に医療ケアやリハビリを提供することができる。	スタッフ間で情報共有をしながら、利用者がより快適に過ごすことができるようケアしている。また、積極的にリハビリを行い、身体機能の維持・向上に努めている。	利用者がより快適に楽しく過ごすことができるよう、医療職からの情報も個別支援計画に反映させていく。
2	日頃から児童おご様子・状況を保護者と伝え合い、発達の状況や課題について共通理解をもてるように努めている。	連絡ノートや送迎の時間を利用し、ご利用の都度保護者との意思疎通の機会を設けており、お会いする機会に限られる保護者には、管理者・児発管が意識的に電話等でコミュニケーションを取るよう心がけている。	管理者・児発管が中心となり、モニタリング・経過アセスメント面談の際に日々のコミュニケーションの積み上げを活用していく。
3	職員の資質の向上を図るために、法人内等で研修を開催する機会が確保されている。	年間研修計画に基づき、イーラーニングを実施している。受講状況や実績を把握できるようにしており、各スタッフが勤務状況に合わせて確実に実施できるようにしている。	スタッフのキャリアに応じて児発管研修等の受講を進めている。また、専門職による事業所内の勉強会を開催しスタッフの更なるスキルアップを図っていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	特に平日のご利用の際にご利用者全員で活動を行うことが難しく、活動の内容が個別での活動が中心となっている。	ご利用の児童が重心児であり、医療ケアが必要な児童も多い。また、入浴を希望されている利用者も多く、スケジュールの問題や可能な活動が限られている関係で放課後のご利用時に全体で集団活動を行うことが難しい現状。	スケジュールの関係上、全員での参加は難しいが、一部の利用者でできる集団活動を取り入れるなどして、利用者間の関わりを増やしていく。
2	活動プログラムが固定化しがちである。	季節の活動を取り入れる等、プログラム固定化（マンネリ防止）に努めているものの、利用者の医療ケアや入浴スケジュールに合わせての活動となり、活動がマンネリ化してしまっている部分もある。	同一法人の他事業所の好事例情報やアドバイスを取り入れ、月に1回は新プログラムの試行に努める。
3	地域との交流や保護者との交流ができていない	利用者のほとんどがバギーを使用しており、医療ケアの利用者も多いことから移動やスケジュール調整が難しい状況。また、利用者の保護者も就労や兄弟児の世話などに忙しく、保護者交流を企画しても参加者が集まらない。	同一法人の他事業所や地域の放課後デイとイベントなどで交流していくことから始め、今後ニーズに合わせて地域交流や保護者会などの活動も検討していく。

事業所名

リールスメディカル新大阪

## 支援プログラム（放課後等デイサービス）

作成日

2025 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。							
支援方針		多様な活動・体験機会の提供を通じて、現在抱える子どもの困り事や生き辛さを改善し、子ども達が自分らしく生き抜く力を育み支える。							
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	11 (10)	時 30 分から	17 (16)	時 30 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、ご利用児童ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 個々の心身の状態に合わせ機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、児童本人の生活リズムの形成・安定を図る。							
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮、変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 児童ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、児童が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。							
	認知・行動	支援スタッフが児童ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえて児童が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、児童が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、児童が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、過去の情報と照合しつつ環境の状況や変化を把握・理解できるよう支援。							
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、ご利用児童ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。							
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：パラバルーン等）の提供により、他の児童と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 ご利用児童ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。							
家族支援		ご利用児童を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。児童の発達状況を相互に理解し合えるよう定期的に情報交換を実施。				移行支援		学童保育を併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。 希望の進路先を見据えた本人・保護者等との相談援助を実施。	
地域支援・地域連携		ご利用児童がスムーズな生活を送れるよう、通学先の学校の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。	
主な行事等		外出活動（各月）、お誕生日会（各月）、節分・ひな祭り（3月）、花見（4月）、スイカ割・七夕（7月）水遊び・夏祭り（8月）、ハロウィン（10月）クリスマス会（12月）、書初め・初詣（1月）お別れ会（3月）							

事業所名

リールスメディカル新大阪

## 支援プログラム（児童発達支援）

作成日

2025 年

9 月

1 日

法人（事業所）理念		子どもの人権や主体性を尊重し、子どもの最善の利益を図るため、保護者や地域社会と力を合わせて子どもを主体とした福祉の推進に積極的に取り組みます。							
支援方針		成長著しい乳幼児期のお子様ひとりひとりの発達の充実が図られるよう、保護者や地域の支援機関との連携を重視しながら、個々のニーズに合わせて工夫を凝らした多様な活動・体験機会を提供することを通じ、就学に備えられるよう支援する。							
営業時間		平日 土・祝・長期休暇	11 (10)	時 30 分から	17 (16)	時 30 分まで	送迎実施の有無	<input checked="" type="checkbox"/> あり	<input type="checkbox"/> なし
支 援 内 容									
本人支援	健康・生活	看護職員等により来所時の健康チェック、お子様ひとりひとりの医療濃度に応じ看護職員による医療的ケアを実施し、健康を保持しつつ活発な活動参加ができるよう支援。 個々の心身の状態に合わせて機能訓練担当職員によるリハビリテーションを実施することで、各自が保有する機能の維持・改善と健全な心身の発達を支援。 保護者との密接な連絡調整と連携により、定期的なご利用を促進し、お子様ひとりひとりの生活リズムの形成・安定を図る。							
	運動・感覚	機能訓練担当職員によるリハビリテーションにより、個々の心身の状態に合わせて姿勢保持や上肢・下肢の運動・動作の改善および習得、関節の拘縮や変形の予防、筋力の維持・強化を図る。 お子様ひとりひとりの身体の状態に合わせ、活動時間中に適切な姿勢保持装置や車いす等様々な補助的手段を活用することで、姿勢の保持や移動手段の確保を図る。 音楽に合わせて身体を動かす活動等の提供により、お子様が保有する聴覚・視覚・触覚など感覚を刺激し、十分に活用することを促進。							
	認知・行動	支援スタッフがお子様ひとりひとりの認知の特性を理解・把握するよう努め、それらを踏まえてお子様が自分に入ってくる情報を適切に処理できるよう支援。 粘土細工などの創作活動の提供により、お子様が視覚・触覚・嗅覚などを通じて物の形や色・重さが変化していくことを体感し、認知機能の発達を促進。 外出（散歩）活動の提供により、お子様が季節の移り変わりによる様々な変化を自ら体感することで、環境の状況や変化を徐々に把握・理解できるよう支援。							
	言語 コミュニケーション	はじまり（終わり）の会等の機会を通じ、コミュニケーション（言語・非言語のやり取り）により、相手の意図を理解することや自分の考えを徐々に伝えられるよう支援。 活動中の意図的な声掛け等により、お子様ひとりひとりの発達状況や興味・関心に合わせ、言語・表情や身振りなどを用いて意思を伝えることを促進できるよう支援。 散歩活動中等の声掛けや、個々に合わせた環境設定により相手と同じものに注意を向け、徐々にその行動や意図を理解していくことを促進。							
	人間関係 社会性	活動中や活動前後の事業所の支援スタッフとの密なやり取りにより、多様な他者との関わりの機会および環境を提供することで人間関係形成の促進。 感覚機能や運動機能を刺激する集団活動（例：パラバルーン等）の提供により、他のお子様と活動に参加することの楽しみを感じることで、社会性を促進。 お子様ひとりひとりの関心や理解度に合わせつつ、ルールのあるゲーム活動の提供により、集団に参加する楽しみや手順を徐々に理解できるよう支援。							
家族支援		お子様の発達状況を相互に理解し合えるよう、こまめな気づきの共有と情報交換を実施。お子様を支える保護者・家族のレスパイト、就労確保の預りニーズに対応し、必要に応じて延長支援を実施。				移行支援		保育所等併用している場合の連絡調整を行い、必要に応じて移行支援。希望の進路(就学)先を見据えた保護者等との相談援助を実施。	
地域支援・地域連携		お子様がスムーズな生活を送れるよう、保育所・幼稚園等の先生、併用している他の支援事業所担当者との連絡調整や連携の実施。				職員の質の向上		年間研修計画に基づき、計画的かつ定期的に全職員および職層別の研修を実施する。	
主な行事等		外出活動（各月）、お誕生日会（各月）、節分・ひな祭り（3月）、花見（4月）、スイカ割・七夕（7月）水遊び・夏祭り（8月）、ハロウィン（10月）クリスマス会（12月）、書初め・初詣（1月）お別れ会（3月）							